

(様式1)

大 学 名	北海道大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	文学研究科人間システム科学専攻、文学研究科歴史地域文化学専攻、教育学研究科教育学専攻		
拠点のプログラム名称	心の文化・生態学的基盤に関する研究拠点		
拠点リーダー氏名	山岸 俊男	所属部局・職	大学院文学研究科・教授
プログラムの概要	心と社会の間のダイナミックな相互形成メカニズム(マイクロ=マクロ・ダイナミックス)を、コンピュータ・シミュレーション、実験室実験、フィールドワークを用いて統合的に解明する。		
拠点形成の目的・必要性	本拠点形成計画は、過去10年間に急速に展開を始めた人間・社会科学全体の新しい潮流の最先端に位置し、人間と社会・文化についての新しい理解を生み出す、国際研究教育拠点の形成を目的としている。本拠点の特徴は、「心の本質的社会性」という、上述の潮流の中でも最も先鋭的な問題に特化したかたちでの研究と教育を行うことで、国際的な研究全体を方向づけ、新たな研究パラダイムを生み出すことを最重点の課題としている点にある。本拠点は、学術的には、来るべき人間・社会科学統合において認知科学の果たし得る役割を飛躍的に増大させると共に、複雑さを増す現代における社会施策形成の基盤となり得る、新たな人間・社会像を提供するものである。		
研究拠点形成実施計画	<p>本拠点形成計画においては、マイクロ=マクロ・ダイナミックスの観点から、「心の本質的社会性」と「マクロな社会パターン」の間の、動的な相互形成過程を解明する。こうした目標の遂行にあたって、以下に詳述する4つの研究の柱を立てる。</p> <p>社会的知性と社会的適応課題研究、協力行動の進化的・社会環境的基盤の分析、社会規範の適応論的分析、文化の進化ゲーム論的分析</p> <p>これらの研究では、これまで漠然と文化・規範・価値・慣習などと呼ばれてきたマクロな複合体が、自律的な主体(エージェント)の間の動的な相互作用によって創発すること(マイクロ マクロ過程)、同時に、主体の行動を規定する認知・感情システム自体がマクロな適応課題への適応・進化の産物であること(マクロ マイクロ過程)を、理論的・実証的に示そうとする。</p>		
教育実施計画	<p>本拠点においては、国際的な研究シーンに通用する第一線の研究者の育成を進めるために、以下の5つの側面を大学院生・若手研究者の教育に際して重視する。</p> <p>国際的な教育展開。</p> <p>国内外の研究拠点との教育交流。</p> <p>研究チームを中心とした研究。</p> <p>国際的な視野での研究発表を可能とする研究及び教育支援。</p> <p>人間・社会科学統合をリードできる研究・教育者の養成</p>		

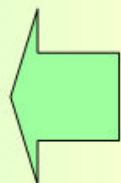
社会的知性と社会的適応課題分析



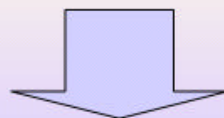
理論研究
実験研究

シミュレーション研究
フィールド研究

協力行動の
進化的・
適応論的
基盤分析



社会規範
の
適応論的
分析



文化の進化ゲーム論的分析